

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

さて、近代小説が近代のネーション形成の基盤であったことは否定できない事実です。ところが、二〇世紀後半になると、文学がナショナルリズムの基盤になったという例は、むしろすくないのです。そして、今後にも、ますますそのようなことは起こらないと思います。現在では、発展途上国で小説が書かれたり、それを読む読者が増えるなどということを期待することはできない。かりに読者がいても、彼らは『ハリー・ポッター』を読むでしょう。

たとえば、アイスランド人についてこういう話を聞きました。彼らは島国のためか、純粹のアイスランド人であることを誇りに思っていた。事実、言語なども「アイスランド・サガ」以来変わっていない、踊りも歌も若者の娯楽にも民族的なものが非常に強かった。だから、アメリカ人の或るジャーナリストは、この状態は永続するだろうと思っていた。ところが、スウェーデンの会社がアイスランドにケーブルテレビを入れたら、^A一夜にして、全員がアメリカ化してしまったみたいだった、というのです。

このような事態は、それによってナショナルリズムが消滅するということはありません。たんに、

文学がナシヨナリズムの基盤となることはもう難しいだろう、ということです。政治的な目的があるなら、小説を書くより、映画を作ったほうが早いでしょう。あるいは、マンガのほうがいい。要するに、活字文化ではなく、視聴覚でやったほうがいい。そのほうが大衆にとって近づきやすいからです。だから、どこでも、近代文学あるいは小説という過程が不可欠・不可避であるとはいえません。もちろんそれを「飛び越え」てしまうことには、大いに問題があるのですが。飛び越えたツケは、いずれどこかで支払うことになるだろうと思います。

〔引用先 柄谷行人『近代文学の終り』〕

問一 傍線部④「一夜にして、全員がアメリカ化してしまっただけだ」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

① 文学がナショナルリズムの基盤になった時代はすぎ、映画やテレビをはじめとする視聴覚文化が大衆を魅了してしまっただけから。

② 島国のアイスランドで孤立した文化は一見純粋な伝統に根付いているかのようでありながら、逆に異文化への抵抗力を失っていたから。

③ 国民性を構成する力としての言語や娯楽は実は表面的な結束力しかもたず、視聴覚を刺激するテレビ文化の破壊性に対応できなかったから。

④ 古来から文学がナショナル形成の唯一の基盤であったが、娯楽性による歴史や文化の統一は脆弱なものだったから。

⑤ アメリカの娯楽文化は世界を席卷するグローバルなものであって、アイスランドもその浸透力に強く影響されたから。